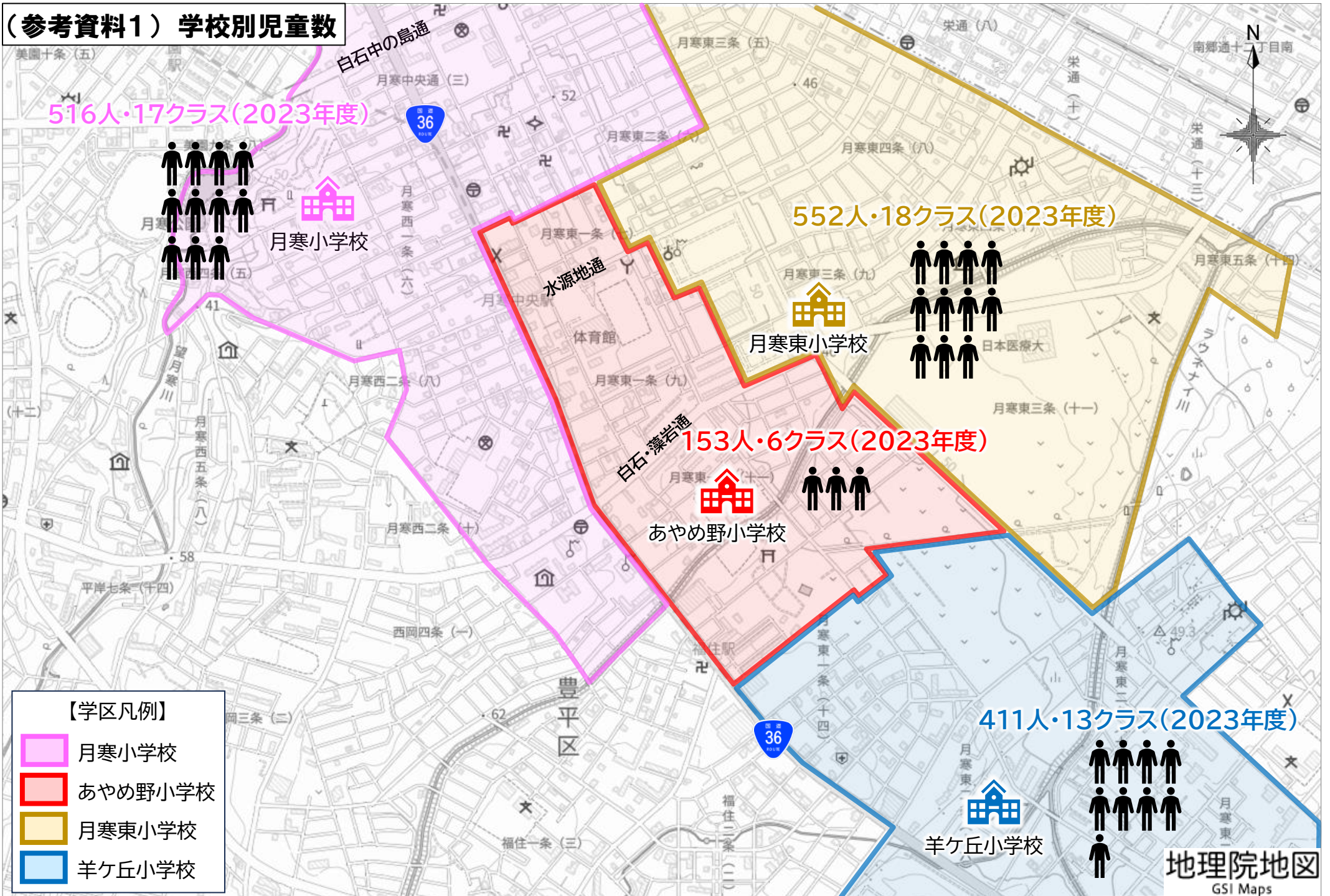
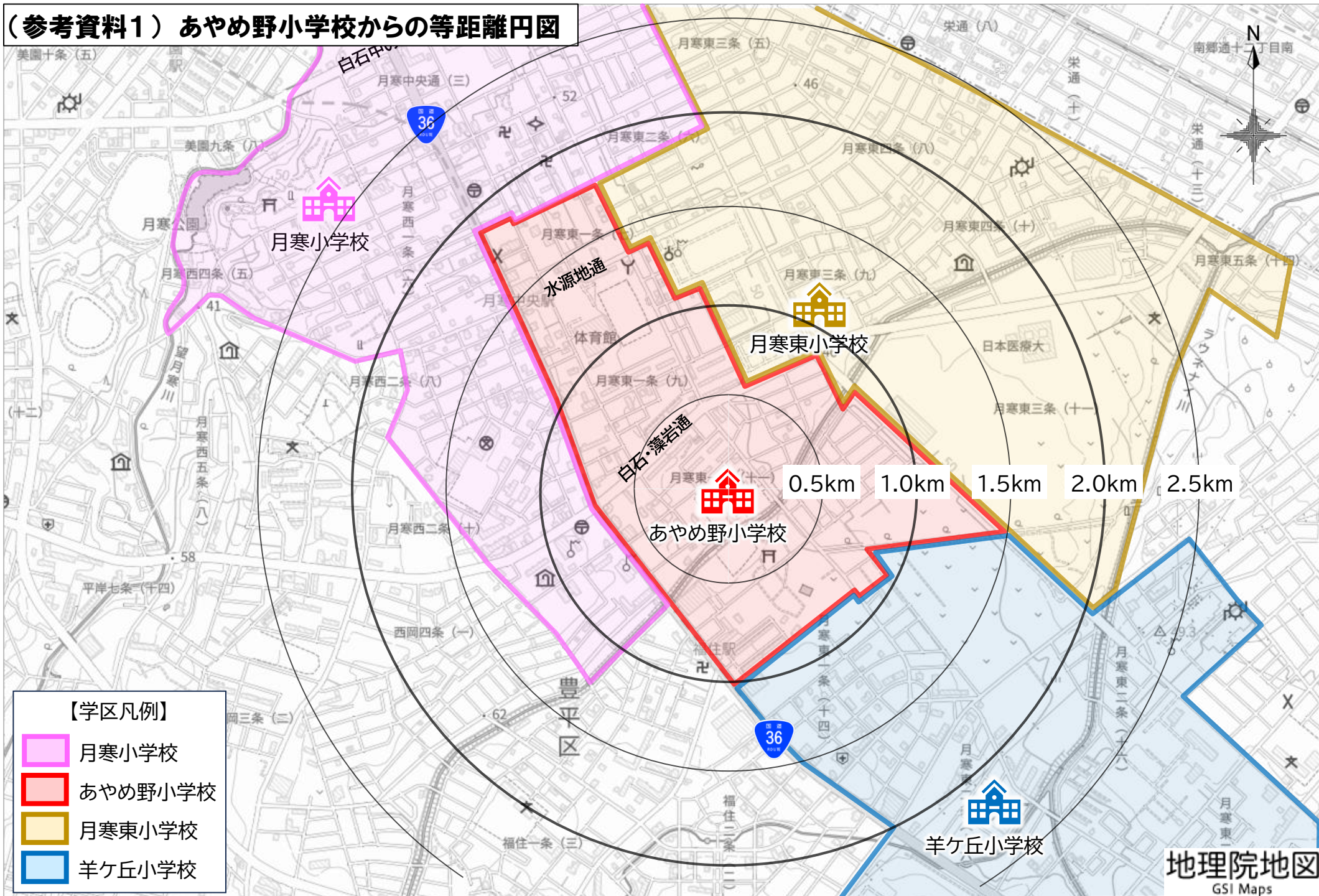


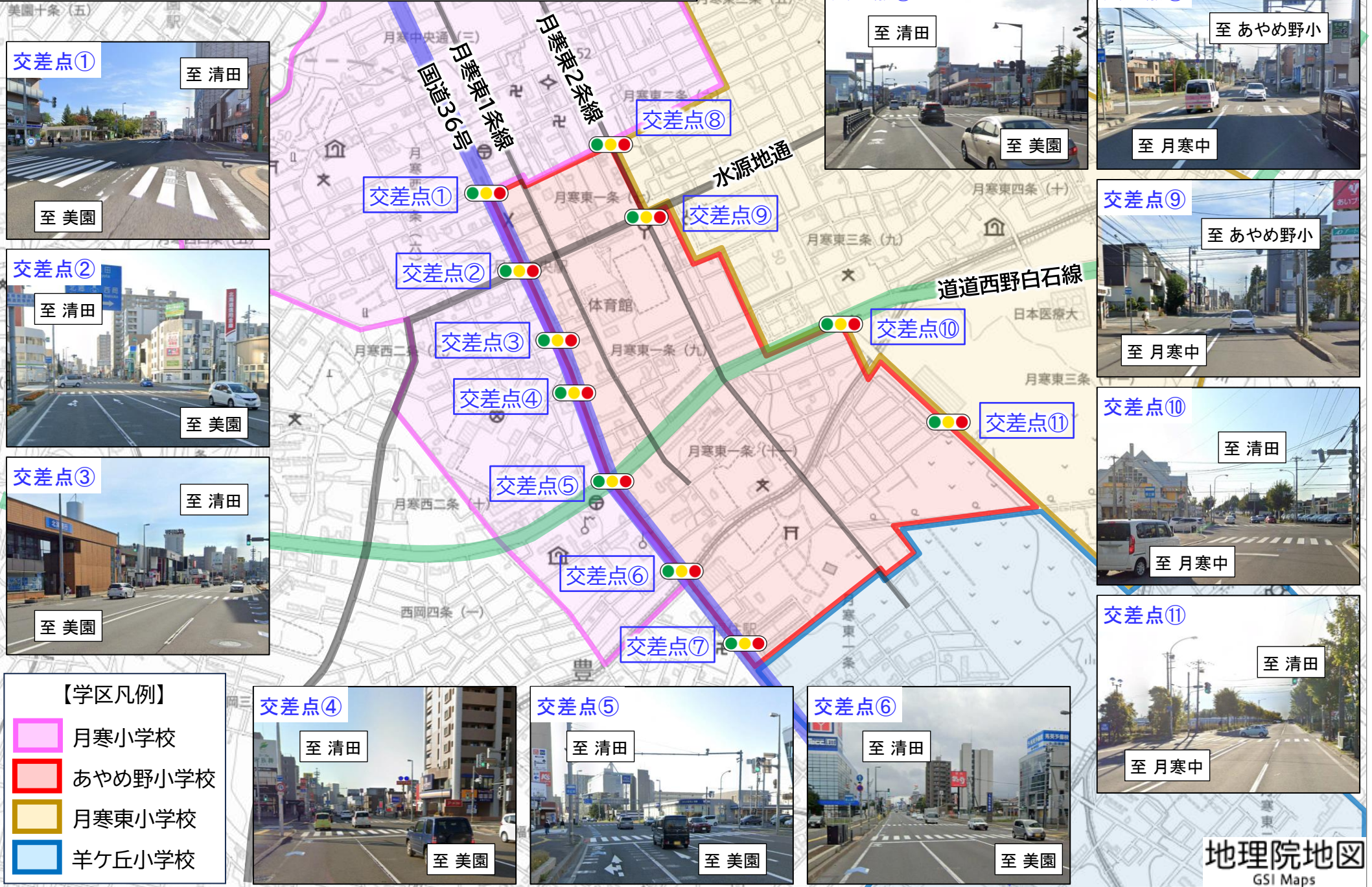
(参考資料1) 学校別児童数



(参考資料1) あやめ野小学校からの等距離円図



(参考資料1) あやめ野小学校 学区外連絡交差点箇所図





札幌市 冬のみちづくりプラン 2018

2018年度～2027年度

2018年12月
札幌市



第5章

重点施策の具体的な展開

抜粋

視点 1 安心・安全な冬期道路交通の確保

視点 2 除排雪作業の効率化・省力化

視点 3 除排雪体制の維持・安定化

視点 4 雪対策における市民力の結集

視点 5 雪対策に関する広報の充実

この章では、重点施策ごとの、取組内容を示します。

視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

除排雪作業を工夫しながら限られた人員・体制においても、これまでの除雪水準の維持を目指します。

(1) 効果的な除排雪の推進

① 幹線道路の除排雪

取組内容

- 除雪水準の確保に向け、気象予報や道路状況などを的確に捉え、計画的に除排雪を行います。**継続** (表 5-1、図 5-1)
- 朝の通勤・通学時に間に合わせる（明け方の降雪は除く）ため、夜間作業を基本とします。**継続**
- 明け方のまとまった降雪などにより、すべての道路の除雪を通勤・通学間に合わせる事が困難な場合は、気象予報及びバス路線や交通量などの道路特性²³を勘案したうえで、あらかじめ優先的に対応する路線を定め、計画的に作業を行います。**拡充**
- バスの円滑な運行の確保に向け、市内のバス路線（国道を除く）の交通量・バス便数・道路幅員などを勘案したうえで排雪の強化や、新雪除雪と拡幅除雪の連続作業を進めます。**拡充** (図 5-2)
- バスの運休情報を速やかに把握するなど、バス事業者との連絡体制を強化します。**拡充**
- 交差点付近の交通渋滞緩和に向け、幹線道路と幹線道路の交差点の排雪を強化します。**継続**
- 見通しを改善して自動車と歩行者の双方の安全を確保するため、幹線道路と生活道路の交差点の排雪を強化します。**拡充**
- 国道管理者と連携し、作業の効率化を図ります。**継続**



幹線道路の除雪



幹線道路の排雪

²³ 【道路特性】 各々の道路が持つ幅員や交通量、機能、役割などのこと。

表 5-1 幹線道路(車道)の除雪水準

種別	道路の機能	目安となる形態	圧雪厚	幅員確保基準	
主要幹線道路	・都市間や都市内の主要拠点を連結	6車線	3cm 以内 (ワダチができない程度)	4車線以上 (概ね13m)	右折車が 気にならない程度
幹線道路	・都市内の各地区や主要施設間の交通を集約 ・日常生活圏(住区)の外郭を形成	4車線	5cm 以内 (ワダチができない程度)	3車線以上 (概ね9m)	右折車が 気にならない程度
補助幹線道路	・住区内交通を集約し、主要幹線・幹線へ誘導 ・生活道路から幹線系道路へ接続 ・住区内の主要施設へのアクセス	2車線	25cm 以内 (走行に支障のない程度)	1.5車線以上 (概ね4m)	小型車との すれ違いができる程度

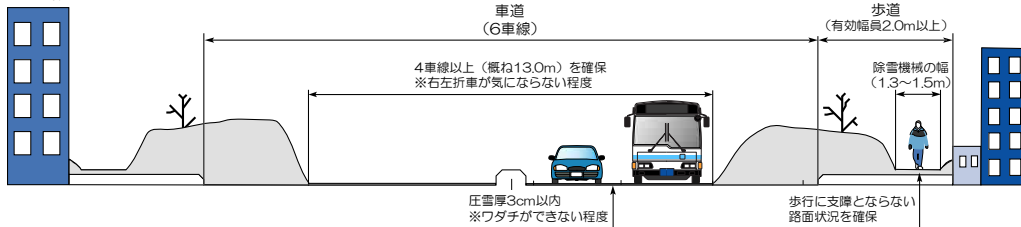
※除雪水準は、目標とする確保すべき「圧雪厚」と「幅員」などを示したものです。(但し、大雪時は除く)

・主要幹線道路

【初冬期や初春期など】



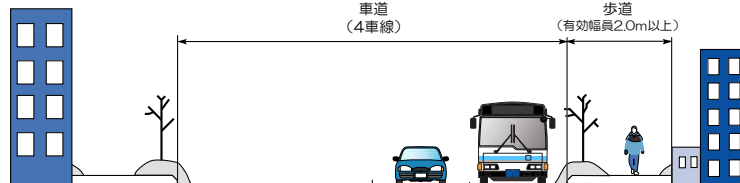
【厳冬期など】



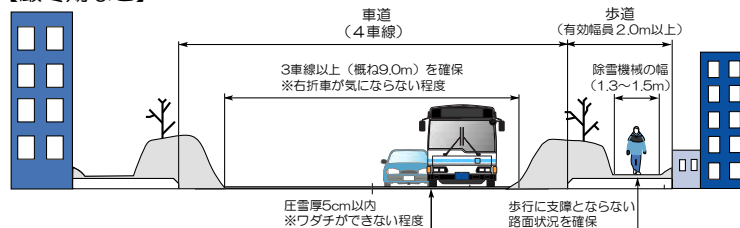
【「主要幹線道路」除雪水準のイメージ】

・幹線道路

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】

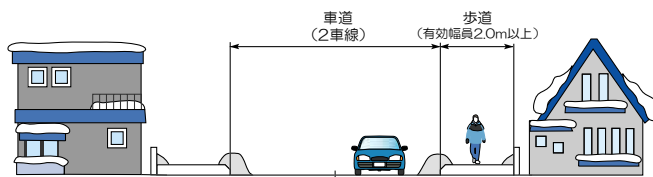


【「幹線道路」除雪水準のイメージ】

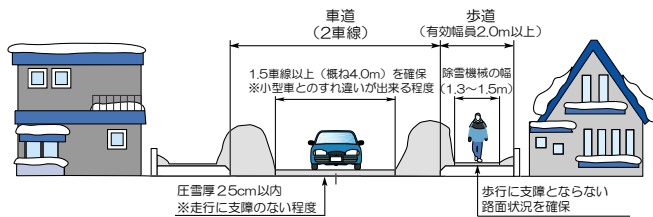


・補助幹線道路

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】



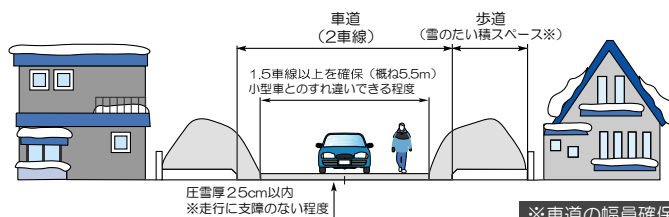
※歩道の確保を優先

【「補助幹線道路(歩道除雪を行う場合)」除雪水準のイメージ】

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】



※車道の幅員確保を優先（歩道は雪の堆積スペース）

【「補助幹線道路(歩道除雪を行わない場合)」除雪水準のイメージ】

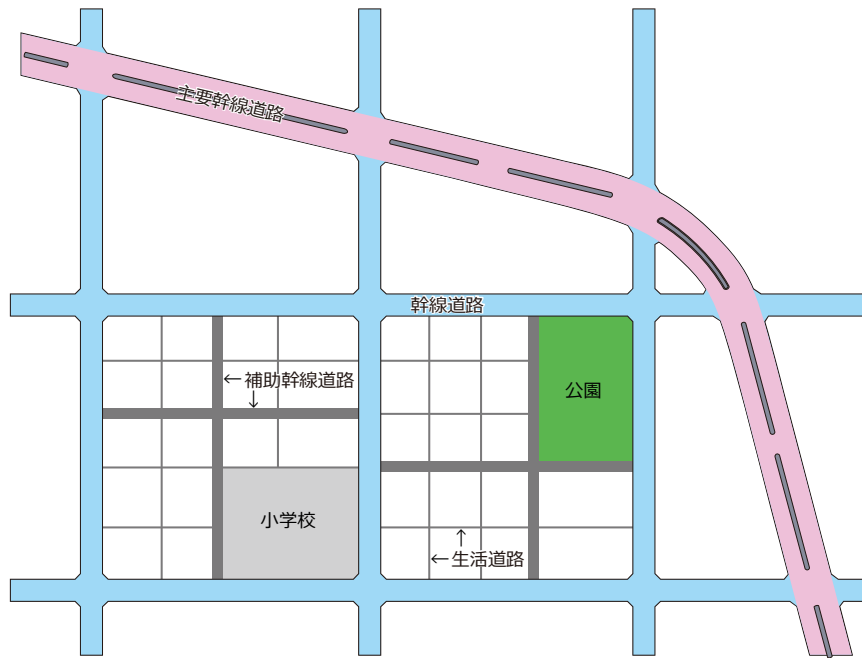
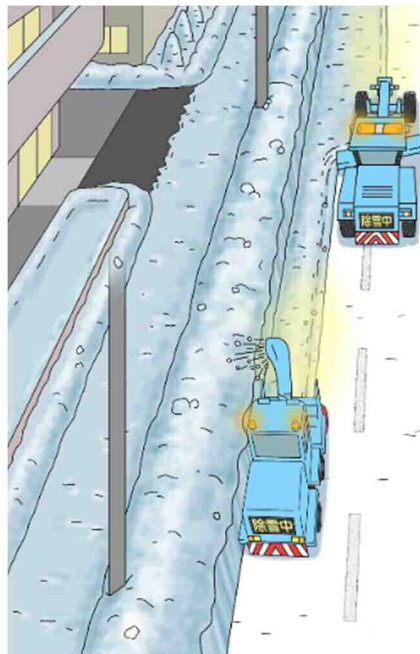


図 5-1 道路種別の概念図



〔 除雪機械で道路脇に寄せた雪をただちに積み上げて、車道幅員を確保 〕

図 5-2 新雪除雪と拡幅除雪の連続作業イメージ

② 生活道路の除排雪

取組内容

【除雪】

- 除雪水準の確保に向け、気象予報や道路状況などを的確に捉え、計画的に除雪を行います。**継続**（表 5-2）
- 今後、除雪従事者の減少が見込まれる中で、作業の省力化や間口の雪処理に係る市民の負担軽減を図るため、実証実験や地域との意見交換などを行いながら、夜間作業を基本とする新雪除雪に代わり、日中、間口の雪処理を行いながら、圧雪路面の整正作業を行う作業方法への変更を検討します。**新規**
- 道幅が狭く除雪機械が入れない道路の除雪は、地域の実態を把握したうえで、対応方法を検討します。**新規**
- 気温の上昇や季節外れの降雨による路面のザクザク対応に向け、気象予報の活用やパトロールの強化などを図ります。**拡充**
- 通行幅の改善に向け、効果的に拡幅除雪を実施します。**継続**



生活道路の除雪

表 5-2 生活道路の除雪水準

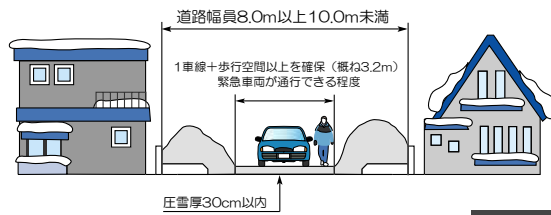
種別	道路の機能	目安となる形態	圧雪厚	幅員確保基準	
生活道路	・各宅地へアクセスする道路	道路幅員 8m 以上 10m 未満	30cm 以内	1車線+歩 行空間以上 (概ね 3.2m)	緊急車両が 通行できる 程度

※除雪水準は、目標とする確保すべき「圧雪厚」と「幅員」などを示したものです。(但し、大雪時は除く)

【初冬期や初春期など】



【厳冬期など】



※歩道は雪の堆積スペース

【「生活道路」除雪水準のイメージ】



② 生活道路の除排雪

取組内容

【排雪】

- 生活道路の排雪は、2つの支援制度（パートナーシップ排雪制度及び市民助成トラック制度）により、地域と札幌市が協力して進めます。**継続**（支援制度は資-11 ページを参照）
- パートナーシップ排雪制度は、実証実験などを行い、「地域の費用負担」と「残す雪の量」の関係や問題点などを確認したうえで、費用負担を抑えた新たな選択肢を設けるなど、これまでの制度を基本としつつ、制度運用の見直しを進めます。**新規**（表 5-3）
- 排雪支援制度の合意形成が得られない地域において、制度の理解や協力を促すチラシを配布する際には、札幌市がチラシを作成するなどの支援を行います。**拡充**
- パートナーシップ排雪制度（日中作業が中心）の作業の効率化に向け、理解と協力が得られた地域では、交通量が少ない夜間作業への切り替えを進めます。**拡充**
- 民間排雪サービスの利用状況を調査し、生活道路における排雪支援制度の地域負担のあり方について検討します。**新規**
- 見通しの確保に向け、効果的に交差点排雪を実施します。**継続**

表 5-3 パートナーシップ排雪制度の排雪断面

現行のパートナーシップ排雪制度の断面	地域の費用負担を抑えた実証実験の断面（例）
<p>道路幅員 8m 排雪幅：6m程度 排雪対象部分 残雪厚：10cm程度</p>	<p>道路幅員 8m これまでと同じ 排雪対象部分 これまでより厚く残す</p>



生活道路の排雪

③ 通学路の安全確保

取組内容

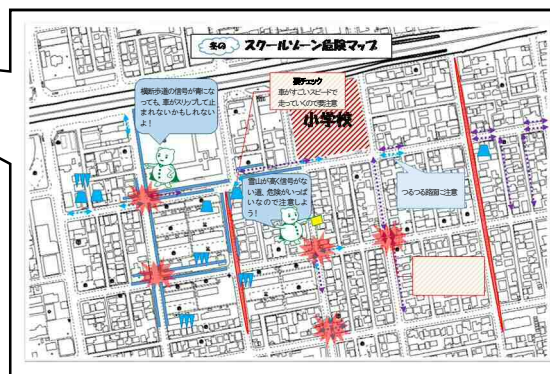
- 小学校の通学路に指定されている道路については、児童の安全確保に向け、歩行空間を確保する新雪除雪を基本とし、道路状況などに応じて拡幅除雪や小学校周辺の交差点排雪を行います。継続（通学路の定義や基準は、資-9 ページを参照）
- 小学校の通学路に指定されている道路のうち、通行する児童が多く、冬期間において歩道が確保されていない場合は、歩行空間確保に向け道路状況などに応じて排雪を行います。継続
- 児童の安全確保については、スクールゾーン実行委員会²⁴などと連携して安全啓発を行うとともに、雪体験授業²⁵での危険マップの作成など、事故防止に向けた様々な取組を進めます。継続（図 5-3）



通学路の排雪前後



図 5-3 雪体験授業(危険マップの作成)



²⁴ 【スクールゾーン実行委員会】PTA、小学校教諭、各町内会、交通安全に関わる団体、関係する行政機関などがメンバーとなり、子どもの交通事故防止を最重点に交通安全上の教育、環境整備、街頭指導などに関する諸施策を推進することを目的として設立されている組織。

²⁵ 【雪体験授業】小学生を対象とした、砂入りペットボトル作製や除雪機械試乗など、除雪に関する出前授業²⁶に各種体験学習を併せた総合学習。

²⁶ 【出前授業】札幌市職員が要望に応じて小学校などに出向き、市の施策に対する理解を深めてもらうための取組。



④ 歩道の除雪

取組内容

- 除雪水準の確保に向け、気象予報や道路状況などを的確に捉え、計画的に除雪を行います。
継続 (表 5-4)
- 朝の通勤・通学時に間に合わせる (明け方の降雪は除く) ため、夜間作業を基本とします。
継続
- 明け方のまとまった降雪などにより、すべての歩道の除雪を通勤・通学間に合わせる事が困難な場合は、気象予報及び歩行者が多いなどの道路特性を勘案したうえで、あらかじめ優先的に対応する路線を定め、効果的に作業を行います。拡充

表 5-4 歩道の除雪水準

種別	目安となる形態	管理	幅員確保基準	
歩道	有効幅員 2m 以上	歩行に支障とならない 路面状況を確保	機械の幅 (1.3~1.5m)	人がすれ違いできる程度

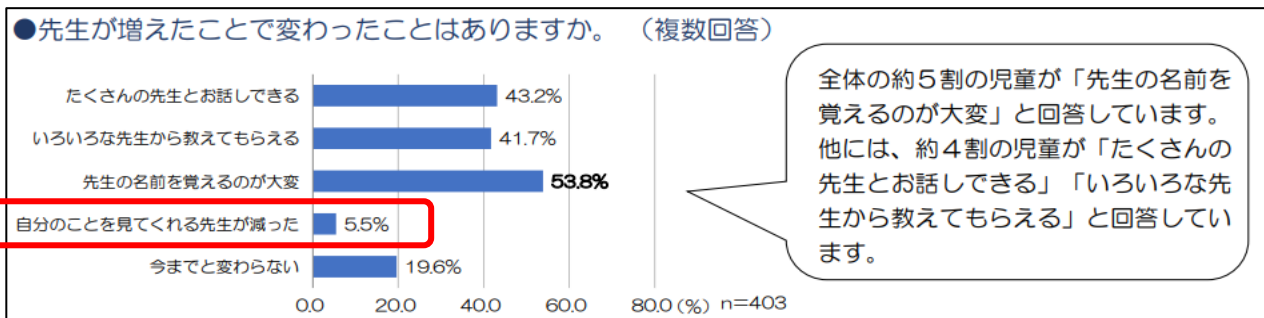
※除雪水準は、目標とする確保すべき「幅員」などを示したものです。(但し、大雪時は除く)



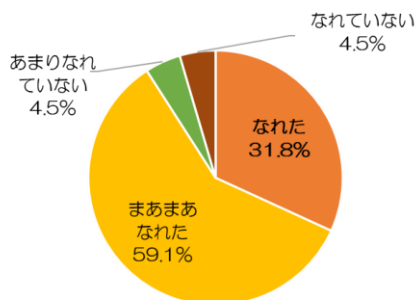
歩道の除雪

○令和3年4月に開校した芸術の森小学校に令和3年12月時点で在籍する児童、保護者及び教員を対象としたアンケートを実施。

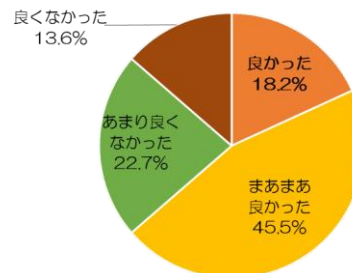
○児童アンケート（回答数409件→石山東小出身：93人、常盤小出身：299人、その他：17人）の内、「先生が増えたことで変わったことはありますか」との設問に「自分のことを見てくれる先生が減った」と回答した5.5%（22人→石山東小出身：9人、常盤小出身：12人、その他：1人）の、その他の設問に対する回答内容を分析。



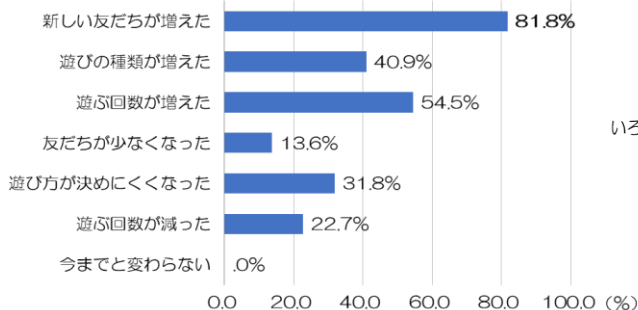
●芸術の森小学校には、なれましたか



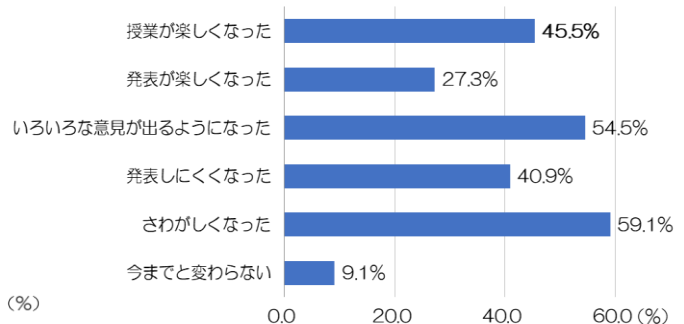
●芸術の森小学校になって人数が増えましたが、そのことについてどう思いますか



●授業の様子は変わりましたか（複数回答）



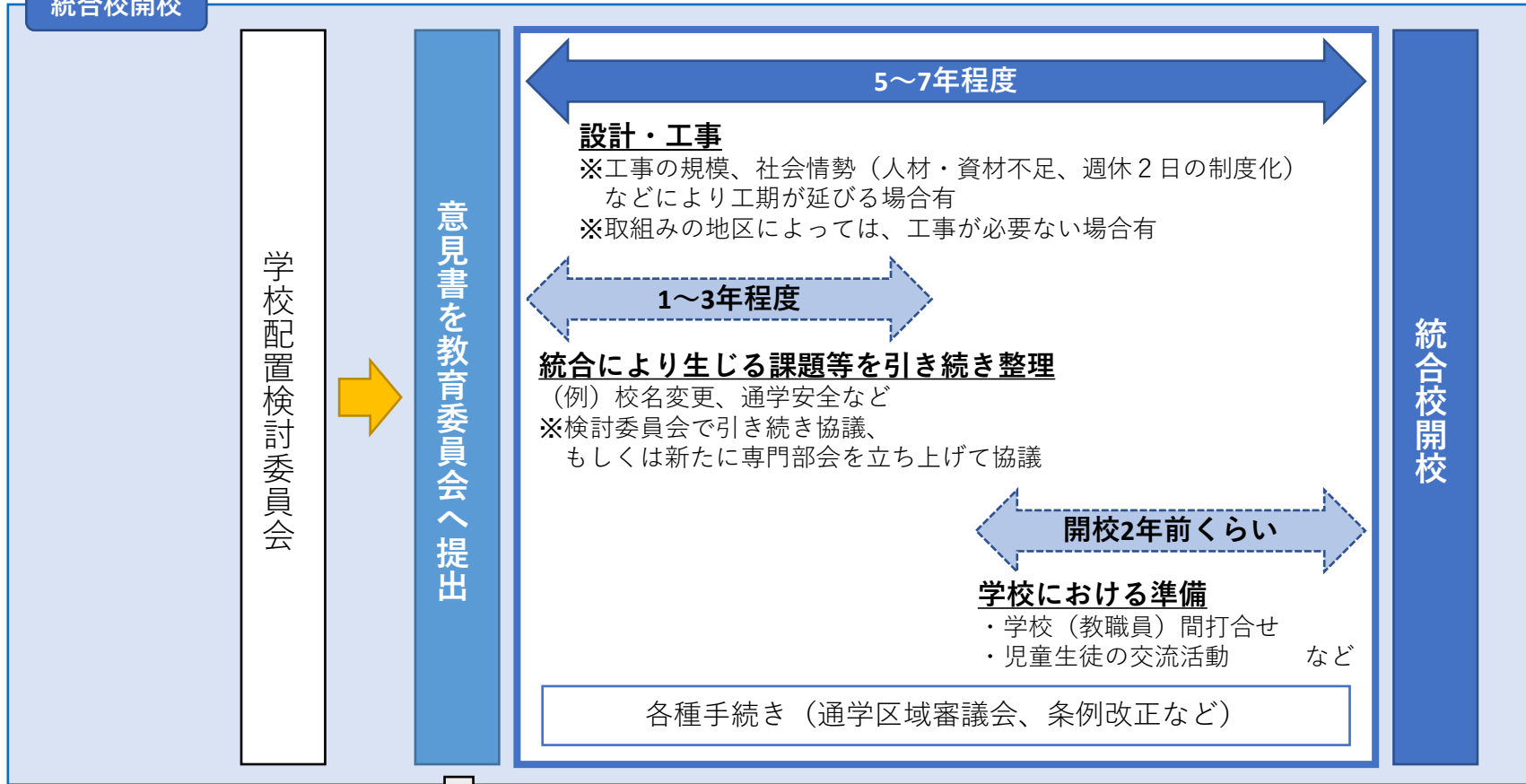
●人数が増えたことで、友達や遊びについてのどのように変わりましたか（複数回答）



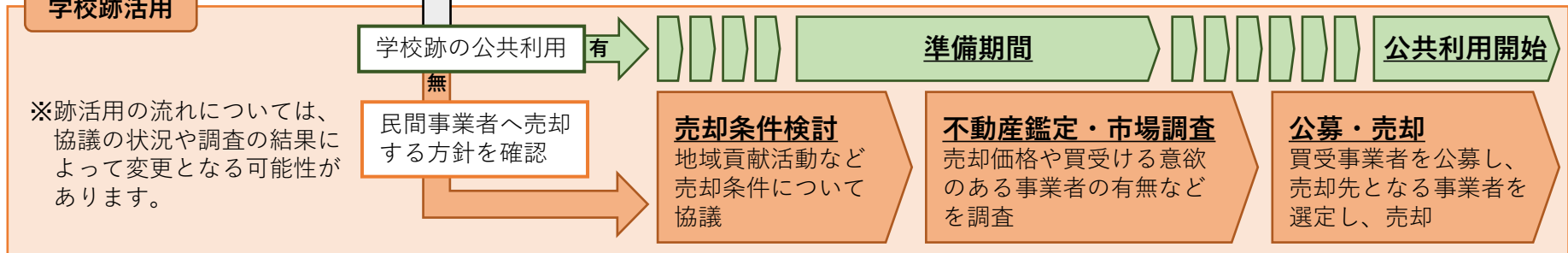
○児童全体のアンケート結果と比較すると、「なれました」、「良かった」の割合は低いですが、「まあまあ慣れた」、「まあまあ良かった」を含めると半数以上は肯定的な回答。

○「遊び方が決めになくなった」「発表しにくくなった」「さわがしくなった」の割合は全体結果と比較して高いが、肯定的な回答も全体結果と同程度の割合となっている。

統合校開校



学校跡活用



※跡活用の流れについては、協議の状況や調査の結果によって変更となる可能性があります。

※一般的なイメージ（目安）であり、決定事項ではありません。

※各地区の状況に応じて年数は前後することがあります。